

# びわこの 考湖学

—第3部—

14

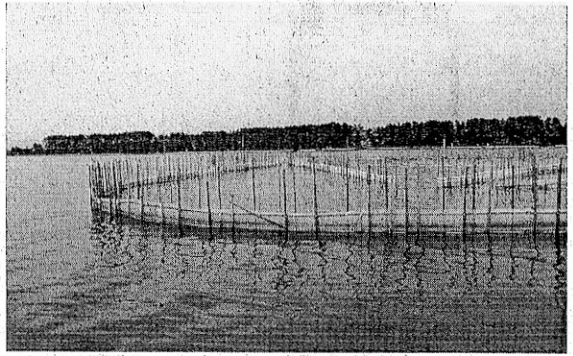
琵琶湖を代表する景観に、湖岸から延びた魼あらいが作り出す景観があります。魼は、湖岸を泳ぐ魚を、簀すいや網あみでつくった遮蔽壁で遮り、魚をこの壁に沿って誘導し、最後には、ツボと呼ばれる小さな部屋に魚を閉じこめて捕る漁法です。魚を罾おとに閉じこめる漁法ですから、陥穽おと漁具を巨大にした漁具といふことができま

りませんが、守山市赤野井濱遺跡からは古墳時代中頃(約1500年前)の魼のツボと考えられる遺構が出土しています。また、平安時代には「さくきつに すがきさほせり 春毎に えりさす民のしわざ ならしも」(『曾丹集』)と詠まれ、古くから湖国の風物詩として親しまれてきたことがわかります。

す。 エリ漁は、魚の遊泳する場所をねらって建てなければなりません。琵琶湖には微妙な水流(シオ)があり、シオにのって魚は遊泳します。この微妙なシオの流れを読んで魼を建てるのが、魼師の腕の見せ所です。

## えり 魼

魼が作り出す景観



浜の大魼は有名で、湖岸から500mも沖合にのびる巨大なものでした。さらに、対岸の堅田からは堅田大魼がのび、まるでこの二棟の魼が、琵琶湖を遮断しているように

見えたといふことです。このような巨大な魼を建てることのできたのは、南湖という水深の浅い環境だったからです。

魼の規模は琵琶湖の水深に規制されます。古くは魼の素材は竹と藪やぶでした。竹の杭かきをし、を打ち込み、これに藪で編んだ簀すいを沿わせて造りました。したがって、魼の規模は藪の長さの水深までしか造れません。その後、簀は細く割った竹を用いるようになりましたが、やはり、簀の長さ以上の水深の所には建てられませんが、竹が魼の素材だった時代、魼に使えるような長い竹は貴重品でした。漁師さんは、高いお金を出して竹を買い求め、簀を編み、魼を建てました。しかし、竹は数年で腐り、

新調しなければなりません。そこでまた竹を買い求めます。竹は、魼の材料の他、生活用品の材料としても重要でしたから、竹林の地主さんは、大切に竹を育てます。そして良い竹が出荷されます。竹を使うことにより、竹林が維持されるサイクルが産まれていました。筍たけのこはおまけです。

昭和50年代以降、魼は科学素材で建てられるようになり、現在は網魼あらいに変化し、理屈上どんな深いところでも魼が建てられるようになり、漁獲効率は格段に上がりましたが、肝心の魚は減少してしまいました。さらに、科学素材の採用に歩調を合わせるように、竹の需要が無くなり、竹林が放置されるようになりました。その結果、竹林の荒廃あふれとして、竹林侵出による森林荒廃という問題が生じてしまいました。

# 琵琶湖に延びる傘

(財団法人滋賀県文化財保護協会 大沼芳幸)

魼の起源は、正確にはわか